

言語学習はまるでジグソーパズルのようだ

こんにちは。 エリック・ピアソンです。 滝川市の国際交流員をしてから7ヶ月が経ちました。 今回は、私がどうやって日本語を勉強したかを書こうと思います。

今では会話をすることも、電話で対応することも、テレビを見たり銀行で振込みをすることも全て日本語でこなせます。 JETプログラムでアメリカから日本に来る前は、私は富山県で一年間の留学と、大学ではカタカナとひらがなを学んでいました。 言語や文化の中に完全に浸れる環境にいる、ということが私の日本語が上達した最大の要因です。

ただ、ほとんどゼロに近い状態で生活を始めた時はショックでした。 電車にとりあえず乗ってはみたものの、行き先が自分の行きたいところどころわからなくて不安だったり、NHKの人が家に来て日本語で話してくるので何のために家に来たのか分からなかったり、漢字の“男”と“女”を間違えて書いてしまったりしていました。

留学で一年間、日本で過ごした後も、JETプログラムで働く前に英語の教師としてまた日本に戻りました。 一年間実家に帰ってから日本に戻って来た時に、私は自分の日本語が全く一定のレベルに達していないと感じました。 それで、上手な日本語を得るために毎日勉強に専念しようと決めましたが、が、その決意は実現することはありませんでした。

しかし、その頃から私の勉強方法が少し変わったことに気付きました。 外国語はまるでジグソーパズルのようです。 子供の頃、私はいつもピースを一つずつはめていくことに夢中になっていました。 例えそれがレゴだとしても大きな3Dのパズルだったとしても、それぞれのピースは作り上げられたパズルの上に加えられ、そしてそれが全体を完成させる次のステップへとなっていきます。 時には二つの大きな部分を完成させて、それぞれの部分をくっつけることができる気付くこともあるでしょう。 そんな時にはいつも「成し遂げた」という素晴らしい達成感があります。 パズルを作り上げていくように、私は日本語の勉強に取り組み始めました。

語彙はまるでジグソーパズルの空の部分のようです。 空のピースは常に集中して努力し続けなければならない、あまりにたくさんのピースがあるため、またわきに戻して考え直さなければいけません。 私の語彙力はいつも進歩が必要で、私は絶えず「もし昨日この単語を知っていれば、Xはもっと簡単に説明できたのに」と思っています。 単語の漢字と、ひらがなの読み、そして英語の意味を書いた単語帳は、自分が知らない単語を記憶するのに便利な道具です。 何週か毎に全部のリストを見返し、意味が分かったり会話で使える単語は消していきます。 これらの単語はもう覚えているので見返す必要はありません。 リスニング、スピーキング、そしてその他全ての言語学習において努力すべき範囲は、それぞれがまるでジグソーパズルの部分のようです。

私は日本のテレビ番組を見過ぎるくらい良く見ますが、それでもテレビを見ている間にノートを取るなどの積極的な勉強をしない限りは、テレビを見る方がいい勉強法だとはお勧めできません。 NHKの自然の番組や、歴史ドキュメンタリーにはたくさんの興味深い言葉が出てきます。 ただそういった言葉は、辞書では見つけられない多くの科学的な専門用語や歴史的背景によって阻まれて、調べようと思っても結局行き詰ってしまいます。 もし、字幕があったならばガイドとしても使えますし、テレビは視覚で言葉を補ってくれます。 しかし私の意見としては、自分から積極的に学ぶという姿勢を持たないと、ただくつろいで楽しいだけの内容に半ば夢中になるだけで終わってしまうという傾向があると思います。

ジグソーパズルに少し付け加えるかのように、私は日課として、自分がしていることを全て日本語で考えることにしています。 私の仕事にはもちろん一日を通して多かれ少なかれ日本語を使う機会があります。 ただ仕事だけではなく、オフの時にも日本語を使えるたくさんのもや娯楽があるので、それを楽しむようにしています。 その一つはもちろん音楽鑑賞です。 多くのJET仲間は、自国から持ってきたCDを積み重ねていますが、私のCDラックは自国のCDの代わりに、過去三年間のJ-popヒットソングのCDで埋まっています。 J-popが嫌いな人もいと思いますが、それはそれで良いと思います。 ただJ-popの歌詞は、日本語でいかに感情を表現するかを学ぶいい材料です。

まだまだ他にもたくさんの勉強法があります。 私は簡単な漫画を読むことから始めました。 ご存知のように漫画は漢字の横に

ひらがながふってあります。 それなりに漢字の基礎ができると、今度は中学生向けの小説に変えました。 今は新聞に挑戦しているところです。 そんな挑戦もしつつ、私はテレビゲームが好きなので、自分に甘くなりここに来てから数週間でいくつものゲームを買ってしまいました。

ただ、今私は自分のお気に入りのゲームをまたやっているのですが、今回は日本語でプレイしています。 勉強しようという意欲を持つ別のいい方法は、日本語検定や漢字検定を受けるなどの目標を持つことです。 時間を使って知らない単語を探すということは、次に同じものを見たときに安心するでしょうし、自分でも「よし、この単語は知っているぞ」と自信を持つことができると思います。

習った全ての単語、文法、漢字はバラバラなパズルのピースを作り上げていく手助けをしてくれます。 時に「なるほど！分かったぞ！」と思える何かを学ぶことは、二つの大きなピースをくっつけることに似ています。

さらに、パズルでは空だけとか草や花壇だけといったように一箇所だけに力を入れるわけにはいきません。 全ての部分に時間をかけて取り組んでこそ、最後の全体像が出来上がってくるのです。 時には見つからないピースがあったり、全体をつかむのが難しいものもあるかもしれませんが、終わりにはひょっこり見つかるものです。 パズルは完成することはあっても言語学習に終わりはありません。

そこにはいつも自分が満身に、そして自分の能力の可能性を感じるために努力すべき部分があります。 言語学習に取り組んでいる皆さん、グッドラック！

交流員になってすぐの初仕事！

8月2日に国際交流員になったばかりの私はすぐサマーファンデーという行事を担当することになりました。 もう既に滝川市を去った前の国際交流員の準備から初めました。

まずは地域に住んでいる外国人に連絡してサマーファンデーに招待する事でした。

ところがほとんどの近くに住んでいる英語指導助手が道内旅行をしていたり、一時的に帰国している人等あまり人数を集められませんでした。 ちょっと心配でした。

範囲を広げて由仁町や室蘭市のAETまで連絡してみました。 結局20人ぐらいが集まりました。

当日早めに現場に着いてテントを建てたり風船を膨らませたりしました。 ボランティアさんも力を貸してくれて開始時間まで準備完了でした！

暑い中、外国のゲームを楽しみながら滝川の市民が外国人と触れ合えました。 水風船投げをしてシャツがびしょり濡れた人は居たけど、怪我人が一人も出なくてなによりも安心しました。 でも日焼けはひどかった！真っ赤！

その夜、盆踊りを体験することが出来ました。

サマーファンデーに参加してくれた外国人がチームを作って一緒にやぐらの周囲を回って踊りました。 最初から踊りがよく分からなくて、ドジな動きをしながら前に並んでいたおぼさんの踊りの真似をしました。 思ったよりすぐ慣れました。 そして後ろに並んでいて一生懸命踊ってくれて外国人の姿を見て踊る意欲が湧いてきました。 気軽に動くように踊り始め、小さなジャンプステップを加えました。 2時間に渡って交代しながら踊りつづけました。

そして日曜日もみんなを集めて再びやぐらの周りで熱く燃えました。 懸賞はペットボトルのお茶でした。 しかも大きな箱3個も手に入れることができました。 乾いた喉を潤すには最適の賞品でした。

来年、私はまだ滝川に居るとしたら、皆さんで仮装をして踊りたい！ とにかく今年は大成功だと思って、熱心に働いた後の休憩を満喫しました。

皆さん本当にお疲れ様でした！